

令和3年度 京都府医師会勤務医部会 活動報告

1. はじめに

勤務医を取り巻く環境は、医療安全対策、過重労働、研修医の指導や自らの生涯教育のあり方など、課題が多岐に渡っている。とりわけ、近年取りざたされている「医師の働き方改革」については、厚生労働省、日本医師会等の様々なセクションで議論が交わされ、「時間外労働の上限規制」「応召義務」「自己研鑽」「宿日直」「タスクシフティング・タスクシェアリング」「救急医療」等をキーワードとして、多角的に検討が重ねられてきた。とりわけ、「医師の健康への配慮」と「地域医療提供体制の維持」という両立が難しい2つの課題を如何に解決していくかが重要であり、同時に医師不足・地域偏在への対策もしっかりと講じる必要があることは明白である。年齢や性別を問わず、全ての医師が一丸となって向き合い、議論していかなければならない。

勤務医部会としては、いかなる状況にも対応できるよう、勤務医部会幹事会を活動拠点として、種々の問題解決に向け取組んでおり、昨年の勤務医部会総会では、医師のワークライフバランス委員会が主催する「医学生・研修医をサポートする会」とコラボレーションし、基調講演、シンポジウムを開催した。

また、新型コロナウイルスの影響により延期となっていた、今年度の取り組みの根幹である「全国医師会勤務医部会連絡協議会」については、令和3年10月2日に満を持して開催。府医会館と全国の都道府県医師会とをオンラインでつなぐ形態を採った。本来であれば、昨年度に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延で1年の延期が決まり、加えて再度の延期はないことが日本医師会、勤務医委員会で決められたため必ず会の実現を目指せる形での開催となった。

メインテーマは、医師会全体が総力を挙げて、勤務医の先生方とともに一丸となって取り組んでいくことの重要性を全国に発信するため、「勤務医とともに歩む医師会の覚悟 ～医師会が守るべきもの、変えるべきもの～」とした。

特別講演やシンポジウムは事前に収録したものを放映し、ディスカッションはオンタイムで展開した。

また、京都府医師会の研修医向け事業の特徴を前面に押し出している「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO」については、動画（短編映画）を撮影し、全国的に紹介することで研修医のボトムアップ、レベルアップ、スキルアップ、コミュニケーションの強化を図った。（詳細は

すべての医師が働きやすい環境を整備していくことは医療業界全体にとって重要な課題であり、そのための提言や事業の策定に取り組んでいきたい。

2. 部会員数

京都府医師会勤務医部会は、発足以来37年を迎えた。部会員数、即ち、B・C会員数は、令和4年1月1日現在、2,024名で昨年より11名の増となり、京都府医師会総会員中、46.0%を勤務医部会員が占めている。ただ、これは全国平均の50.4%（令和3年11月現在での日医集計による）と比べて低い状況にあり、京都府内に従事する勤務医の約3分の2が医師会に未加入であることを考えると、依然、勤務医の組織率が低い状況にある。

過去8年間の勤務医部会員数の推移

年	勤務医部会員数	京都府医師会総会員数	割合
令和4年	2,024名	4,400名	46.0%
令和3年	2,013名	4,399名	45.7%
令和2年	1,962名	4,369名	44.9%
令和元年	1,942名	4,367名	44.4%
平成30年	1,891名	4,339名	43.6%
平成29年	1,795名	4,243名	42.3%
平成28年	1,713名	4,148名	41.3%
平成27年	1,684名	4,120名	40.9%

※基準日：1月1日現在

3. 部会役員に関する件

松井勤務医部会長のもと、幹事長に鴻巣寛氏、副幹事長には出島健司氏、若園吉裕氏、福田互氏、木戸岡実氏にご就任いただいた。今期の役員は以下のとおり。なお、任期は府医役員に準じ2023年6月定時代議員会まで。

役職	氏名	医療機関
部会長	松井 道宣	同仁会クリニック
幹事長	鴻巣 寛	綾部市立病院
副幹事長	出島 健司	京都第二赤十字病院
〃	若園 吉裕	京都桂病院
〃	福田 互	京都第一赤十字病院
〃	木戸岡 実	伏見岡本病院
幹事	渡邊 健次	京都鞍馬口医療センター
〃	衛藤 美穂	京都第二赤十字病院
〃	松本 恭明	堀川病院
〃	清水 恒広	京都市立病院
〃	飯沼 昌二	洛和会丸太町病院
〃	清水 聡	新京都南病院
〃	永田 一洋	康生会武田病院
〃	大越 香江	日本バプテスト病院
〃	谷川 徹	北山病院
〃	植田 知代子	京都桂病院
〃	沢田 尚久	京都第一赤十字病院
〃	兼子 裕人	愛生会山科病院
〃	木下 智晴	洛和会音羽病院
〃	馬場 一泰	医仁会武田総合病院
〃	瀬田 公一	京都医療センター
〃	大野 智之	済生会京都府病院
〃	金 修一	宇治武田病院
〃	鹿野 勉	京都岡本記念病院
〃	中田 雅支	京都山城総合医療センター
〃	田中 宏樹	亀岡市立病院
〃	計良 夏哉	京都中部総合医療センター
〃	高升 正彦	綾部市立病院
〃	中村 紳一郎	市立福知山市民病院
〃	富士原 正人	京都ルネス病院
〃	竹内 一雄	舞鶴共済病院
〃	酒井 克之	舞鶴医療センター
〃	沖原 宏治	京都府立医科大学附属北部医療センター
〃	妹尾 浩	京都大学医学部附属病院
〃	浮村 理	京都府立医科大学附属病院

4. 幹事会・正副幹事長会の開催

令和2年度は1回の幹事会と1回の打合せを含めた正副幹事長会を開催し、今期の事業内容を検討するとともに、総会の運営等について協議した。

開催日	会合名	主な協議事項
3.9.14	幹事会	(1) 令和3年度勤務医部会事業計画について (2) 京都医報『勤務医通信』の執筆依頼について (3) 令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会について (4) 勤務医部会幹事会正副幹事長・WGの設置について (5) 勤務医部会幹事会メーリングリストの設置について

		<p>(6) 令和3年度勤務医部会総会の開催について</p> <p>(7) 今期の勤務医部会幹事会のテーマについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修医全員入会 ・勤務医（B会員）の具体的な入会促進策について ・研修医会員から後期研修医会員への継続入会について ・府医の委員会との連携について ・医師の働き方改革について
--	--	--

5. 京都府医師会への入会促進

2016年度より始まった初期研修医の医師会費無料を受けて、各臨床研修指定病院のご協力のもと、積極的な入会促進を行い、94名の入会を得ることができた。

6. 第47回京都医学会への演題発表

今年47回目となる京都医学会を11月7日（日）から12月5日（日）まで開催。新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の情勢を鑑み、昨年に引き続き全プログラムをWebで配信し、432名が参加した。

今回の特別演題は『COVID-19の疫学モデルと制御の困難』というテーマで京都大学大学院医学研究科環境衛生学教授の西浦博先生にご講演いただき、数理モデルに基づく流行の波やワクチンなど新型コロナウイルス感染症の最新の状況や課題などを網羅的にわかりやすくお話しいただいた。

シンポジウムは『新型コロナウイルス感染症～その時組織が動いた！』というタイトルで京都府保健環境研究所所長 藤田直久先生を総括者に迎え、京都府内の新型コロナ対策を担う各機関の現状等について5名の先生にそれぞれお話を伺った。

まず、京都府立医科大学大学院医学研究科感染病態学教授 中屋隆明先生は、ウイルス学の専門家の立場からCOVID-19の特徴やウイルス変異などについて、過去の感染症の流行と比較しながらご講演いただいた。

次に、京都府立医科大学救急・災害医療システム学講師 山畑佳篤先生からは、「入院コントロールセンター」での活動について、京都府の新型コロナウイルス感染症対応の中核として、センター設置から第5波までを振り返り、京都の医療提供体制の特徴などをわかりやすくお話しいただいた。

続いて、京都府乙訓保健所所長 佐藤礼子先生からは、COVID-19に関する保健所の業務の実情をお話しいただくとともに、患者増加に伴う業務逼迫の中で検査体制や自宅療養者への健康観察など多様な医療ニーズに応え、感染拡大を食い止めるために、地域の医師会や病院と協力して対応した取り組みが示された。

府医の新型コロナウイルス感染症対応の最前線に立つ感染症対策担当理事 禹満先生は、広報、診療・検査体制の整備、宿泊施設・自宅療養者の健康管理、ワクチン接種など、府医が会員や行政とともに取り組んできたことを報告するとともに、今後の府内の医療提供体制におけるかかりつけ医の役割などについて言及した。

最後に、京都第一赤十字病院院長特任補佐・救命救急センター長 高階謙一郎先生から、新型コロナ患者の受け入れ病院の実情について、スタッフの配置や病床運用などの視点からご講演いただいた。

一般演題は、勤務医から53題（初期研修医7題含む）。演者から動画を提出いただき、特別講演、シンポジウムとともに約1ヵ月間オンデマンド配信したことで、多くの会員の視聴が得られた。

7. 京都医報「勤務医通信」欄への投稿

京都医報内に「勤務医通信」コーナーを設け、幹事の先生方に執筆をお願いしてきた。テーマは執筆者の自由としており、勤務医の生の声として掲載した。

8. 日本医師会勤務医委員会との連携

日本医師会勤務医委員会委員として上田朋宏府医理事が参画している。日医と府医の連携を図るとともに、日医に対して勤務医を取り巻く課題や現況を示し、あるべき姿を提言している。

9. 全国医師会勤務医部会連絡協議会の議論を経ての当日の運営

令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会が日本医師会主催、京都府医師会の担当により、10月2日に開催された。本来ならば、令和2年度に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の蔓延で1年の延期が決まり、京都府医師会館と全国の都道府県医師会とをオンラインでつなぐ形式で行った。

今回のメインテーマについては、京都府医師会理事会並びに同勤務医部会で協議を重ね、「勤務医とともに歩む医師会の覚悟～医師会が守るべきもの、変えるべきもの～」。今後、医師の代表として立ち居振る舞うべき医師会が、勤務医と共に歩むためにどのような覚悟が必要かということを中心にテーマに設定した。

関係者が集まって行う例年の協議会のように、終日にわたっての開催は不可能であるため、三つの特別講演は全て事前に収録し、オンデマンドで視聴できる形にした。

当日は、あらかじめ収録した中川俊男会長並びに松井道宣京都府医師会長のあいさつに続き、二つのシンポジウムの講演を配信。シンポジストには来館してもらい、都道府県医師会、フロアとのディスカッションに主眼を置いた。

シンポジウムⅠ「専門医制度の行方～理想と現実、目的と結果の齟齬（そご）～」

まず、座長を務めた小野晋司京都府医師会副会長は、専門医制度に携わるステークホルダーの変遷として、さまざまな立場から見た「専門医制度」について述べ、専門医制度の根幹を支える医療現場の多様な声（専攻医、専門医及び研修医療機関など）の反映の必要性を訴えるとともに、日本専門医機構・各学会が育成した「専門医」の“質の評価”を確実に行うこと、また「専門医制度」の活用のためにかかりつけ医との密接な連携の必要性を提示した。

その後、シンポジストからは、市中急性期病院や医師不足地域の地域中核病院、女性医師や専門医教育者から見た「専門医制度」が取り上げられ、問題が提起された。

講演の後には、今村聡副会長や武田俊彦元厚生労働省医政局長よりコメントがあり、その後ディスカッションが行われた。

その中では、シーリング（地域貢献率）適応は、真の医師不足地域への医師供給を図るには、より広い視野に立った対応が望まれることや、若手の教育だけではなく医師が一生学び続け、知識や技術をアップデートし続けられる制度設計を期待する声が上がった他、国民の関心は良い医療を支える「専門医教育の質」にあり、その本質は妥当で信頼性のある「学習者（専攻医）の評価」にある等の意見があった。

また、京都府医師会からは、専門医のシーリングがなされる中で、「京都で良医を育て、全国に送り出す」ことをスローガンとしているとして、シンポジウムⅡの内容につながる見解も示された。

シンポジウムⅡ「研修医、若手医師に対する医師会の本気度を問う」

冒頭、座長を務めた加藤則人京都府医師会理事が、京都府医師会が展開している研修医事業について触れ、全国でも同様の取り組みが進むことで、研修医のボトムアップが期待されるとの提言が述べられた。

その後は、京都府医師会の研修医事業が歩んできた「道のり」について紹介され、山あり谷あり、紆余曲折を経て、現在の研修医事業が展開されていることが示されるとともに、実際の取り組みの紹介、そして、その中で出てきた課題についてどのように向き合い乗り越えてきたかについて言及があった。

また、若手医師、女性医師のキャリアパスに医師会ができること、やるべきこととして、①若手、女性を組織に組み込む（スポンサーシップ）②心理的安全性を担保する③人の育成を大切にする（＝「失敗からの学習」を重視）—ことの重要性が示された。

医師会としては、若手医師、優秀な若手指導医、それらをつなぐ場を提供する医師会、サポートする医師会に変わることが必要と考えられる。

シンポジストの講演に続いて、橋本省常任理事よりコメントが述べられた後、ディスカッションが行われた。

短編映画「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO」

本来であれば、2日目に勤務医交流会を開催し、京都府医師会で実際に行っている「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO」を体験してもらう予定であったが、膝を突き合わせての取り組みが叶わなかったため、松竹撮影所の協力の下、実際に「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO」に携わっている若手医師自らがカメラの前に立ち、同事業について説明するために製作した15分程度の短編映画をオンラインで配信した。

「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO」も現在の形態に至るまでに、険しい道のりを歩んできた。構想当初は、臨床研修指定病院によってはなかなか理解が得られず、時には京都府医師会の担当理事が病院に赴き、趣旨を説明する場面もあった。今の研修医事業があるのはこういった地道な努力と、医師会と臨床研修指定病院のつながりのみならず、地域行政との連携が不可欠であることが強く認識されたことが、地域医療の水準を絶えず維持向上させることにつながり、京都府行政の積極的な参画につながっている。

研修医向けの取り組みに興味をおもちの都道府県医師会におかれては、ぜひとも京都府医師会にお問い合わせ頂きたい。

そして、これらの企画終了後に、参加者に対して「きょうと宣言」(別掲)を提案し、全会一致で採択されて盛況裡に幕を閉じた。この場を借りて、参加者、関係者の皆様に心より御礼申し上げる次第である。

きょうと宣言

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、厳しい就労環境における勤務医の献身的な努力により辛うじて支えられてきた医療提供体制、とりわけ入院医療体制崩壊の懸念を現実のものとした。今後、一人一人の勤務医が様々な立場、多様な役割を担っている他の勤務医や診療所医師との間で相互の理解と密接な連携を深めていかなければ、多くの課題を抱えるわが国の医療状況はさらに深刻化することが危惧される。

コロナ禍のもとにおいても勤務医をめぐる課題は変わることはなく、先送りすることは許されない。確実に少子化・高齢化が進む中で、中長期的に医師の需給を調整する必要性が指摘される一方、医師の地域偏在・診療科偏在は喫緊の課題として対応が迫られている。

時間外労働の上限規制、専門医制度など勤務医が直接大きな影響を受ける制度の変更が、地域医療構想や医師の偏在対策等の政策課題を実現するための手段として議論が進められている。いずれの制度も本来、勤務医が最大の当事者であるが、勤務医、特に最も大きな影響を受ける若手医師からの希望や意見を十分集約・反映した上で協議・検討が進められる状況からはほど遠い。

このような状況に鑑み、地域医療の確保と発展に勤務医が専心できるよう、次の通り宣言する。

- 一、新興感染症にも適切に対応できる医療提供体制の再構築を図る
- 一、絶対的な医師不足の存在する地域ならびに診療科における確実な医師の充足により勤務医の就労環境の改善を図る
- 一、働き方改革、専門医制度の議論においては当事者としての勤務医の意見を尊重する
- 一、医師会組織における勤務医の主体的な活動が可能となる環境整備を図る

令和3年10月2日

全国医師会勤務医部会連絡協議会・京都

令和3年度全国医師会勤務医部会連絡協議会プログラム

日 時：令和3年10月2日（土） 午後2時～5時

会 場：京都府医師会館（WEB会議）

主 催：日本医師会

担 当：京都府医師会

メインテーマ「勤務医とともに歩む医師会の覚悟 ～医師会が守るべきもの、変えるべきもの～」

総合司会 京都府医師会理事 上田 朋宏

開 会（収録・当日配信）

挨 拶

日本医師会長 中川 俊男
京都府医師会長 松井 道宣

来賓祝辞

京都府知事 西脇 隆俊
京都市長 門川 大作

シンポジウムⅠ「専門医制度の行方 ～理想と現実、目的と結果の齟齬～」（収録・当日配信）

座長 京都府医師会副会長 小野 晋司

コメンテーター 日本医師会副会長 今村 聡

コメンテーター 元・厚生労働省 医政局長 武田 俊彦

「専門医制度～ステークホルダーの変遷～」

京都府医師会副会長 小野 晋司

「市中急性期病院における専門医研修の現状と課題」

京都第一赤十字病院副院長

内科専門医研修プログラム統括責任者 福田 互

「地域中核病院における外科専門医の育成」

京都府立医科大学附属北部医療センター病院長 落合登志哉

「女性消化器外科医が生き延びることは可能か」

日本バプテスト病院 外科副部長 大越 香江

「我が国の専門医教育に求められるもの」

京都大学医学教育・国際化推進センター 臨床教育部門長 教授 小西 靖彦

シンポジウムⅡ「研修医、若手医師に対する医師会の本気度を問う」（収録・当日配信）

座長 京都府医師会理事 加藤 則人

コメンテーター 日本医師会常任理事 橋本 省

「医師会と若手医師教育」

京都府医師会理事（元京都府医師会若手医師ワーキンググループ）

京都第二赤十字病院 消化器内科 堀田 祐馬

「京都府医師会の研修医向け事業の位置づけ、あり方」

京都府医師会若手医師ワーキンググループ

京都府立医科大学大学院循環器内科学教室 杉本 健

「若手医師、女性医師のキャリアパスに医師会ができること、やるべきこと」

京都府医師会理事

京都大学医学部附属病院医療安全管理部教授 松村 由美

短編映画上映 「臨床研修屋根瓦塾 KYOTO とは（仮）」 制作協力 松竹撮影所

きょうと宣言採択

京都府医師会勤務医部会幹事長 鴻巣 寛

次期担当県挨拶（収録・当日配信）

愛知県医師会会長

柵木 充明

閉 会

【オンデマンド配信】

来賓祝辞

京都府知事

西脇 隆俊

京都市長

門川 大作

特別講演Ⅰ 「日本医師会の新型コロナウイルス感染症対策について」

日本医師会長

中川 俊男

特別講演Ⅱ 「日本料理とは何か」

株式会社菊の井 代表取締役

村田 吉弘

特別講演Ⅲ 「専門医制度について～その目的と課題～」

元・厚生労働省 医政局長

武田 俊彦

報 告 「日本医師会勤務医委員会報告」

日本医師会勤務医委員会委員長

渡辺 憲